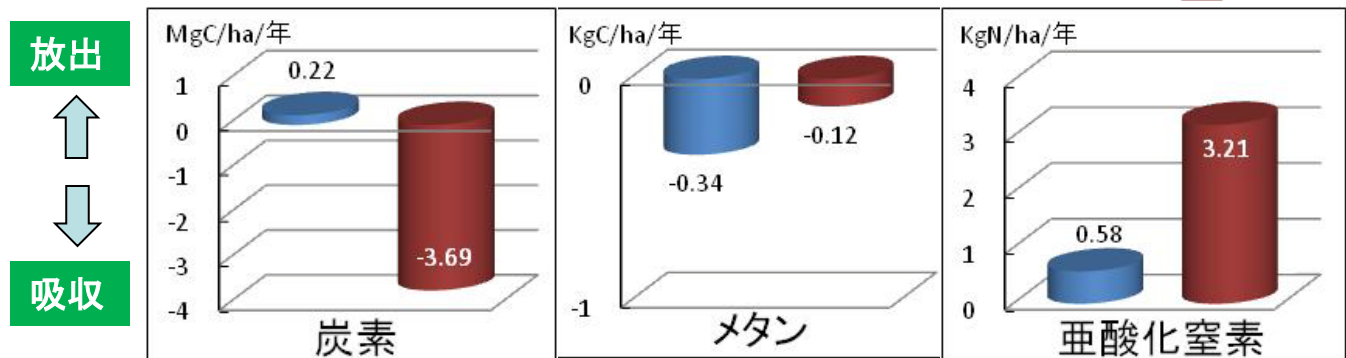




# 草地における温室効果ガス発生量

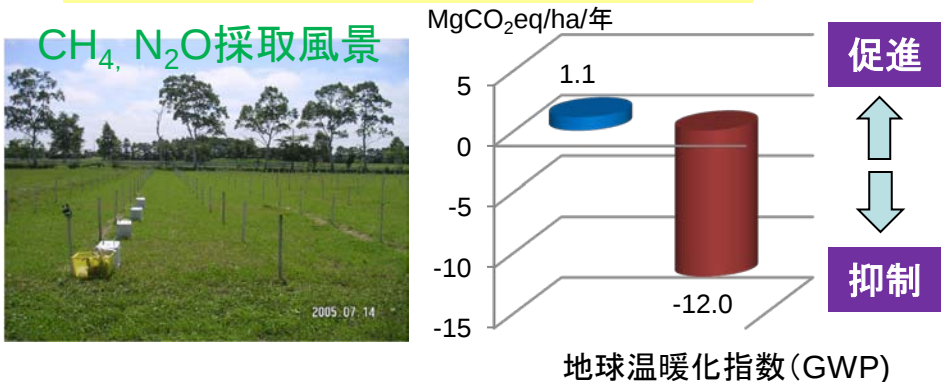
## ○化肥区と堆肥区の温室効果ガスの収支は？



堆肥区は化肥区より、**亜酸化窒素放出量が多いものの、炭素の蓄積量が多い。**  
メタン吸収量は両区とも少ない。



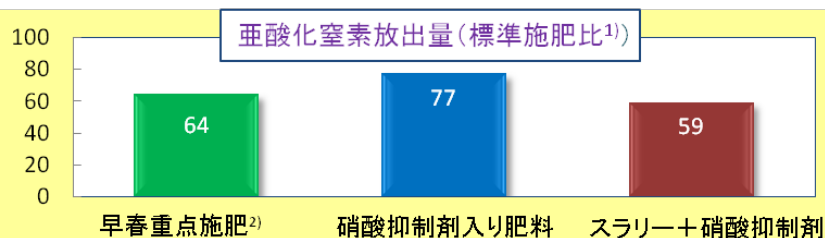
## ○地球温暖化に対する評価は？



○化肥区は促進・抑制に与える影響が小さい。

○堆肥区は維持管理段階では抑制する。

## ○亜酸化窒素放出量の低減は可能か？



1)スラリー＋硝酸抑制剤はスラリー標準施肥比。

2)窒素施肥配分を早春：夏＝5：1。標準施肥は2：1

窒素施肥法の改良により、亜酸化窒素放出量が低減する可能性があります。

